

宮崎大学農学部附属農業博物館ニュース

Agricultural Museum NEWS

2012
NO. 34

平成24年度
企画展示

新生 宮崎の畜産

～口蹄疫を越えて 忘れず・活かし・挑む～



宮崎大学農学部
UNIVERSITY OF MIYAZAKI

宮崎大学農学部 附属農業博物館
HP:<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~museum/>

平成24年度企画展示

新生 宮崎の畜産

～口蹄疫を越えて 忘れず・活かし・挑む～



2010年に、発生した家畜の伝染病である「口蹄疫」は、宮崎県の畜産に大きな被害をもたらすとともに、県内外のあらゆる産業や私達の暮らしに様々な影響をもたらしました。

130日間におよぶ、本県のみならず全国の関係者の協力や支援により、終息にいたりましたが、同時に、私達に多くの教訓を残しました。その中でも、日常的に家畜の病気（特に、「口蹄疫」のように感染して広がる病気）を防ぐ仕組みである防疫（ぼうえき）が重要であることが明らかとなりました。

防疫は、畜産関係者や獣医師などの専門家だけでは実現できません。一般市民の方々が防疫の仕組みを理解して、日常的にご協力いただくことも、とても大切なのです。

口蹄疫被害は、関係者だけでなく一般市民の方々にとっても「つらい記憶」であり、忘れることも、心の健康にとっては大切でしょう。しかし、「口蹄疫被災から得られた教訓」については、忘れずに、これからの宮崎の畜産復興のために活かして行く必要があります。

この展示では、2010年度の口蹄疫の発生から終息までを振り返りながら、これからの宮崎の畜産に必要な、防疫の仕組みについて学んで頂ければと、獣医学科の先生方のご協力の下で企画いたしました。また、新しい組織を立ち上げ、人材育成から国際連携に取り組みながら、本県の畜産新生に挑む宮崎大学の活動についてもご紹介させていただいています。

口蹄疫の症状は？

40℃以上の高い熱がでたり、大量のよだれのほか、口や蹄（ひづめ）周りなど皮膚の柔らかい部分に水ぶくれができたりして、餌が食べられなくなったり、足が痛くて歩けなくなったりします。

潜伏期間は動物の種類によって異なり、ウシは約6日、ヒツジは約9日、ブタは約10日とされていますが、実際には感染した際のウイルスの量と関係があり、一般に、多量であれば潜伏期間は短くなります。

なお、感染した1匹の豚は1日に4億個のウイルス粒子をまき散らします。また、ウイルスは、わずか10粒子で牛を感染させる力があります。

もたらされた被害 (宮崎県のまとめ)

畜産はすそ野の広い産業です。そのため、口蹄疫の被害は畜産だけでなく、私たちの暮らしに関わる様々な分野におよびました。また、被害の内容も経済的なものだけでなく、生産者の心にも暗い影を落としました。

殺処分された牛豚頭数

28万8,300頭

発生農場数 292戸



ワクチン接種農家数 1,012戸



累計頭数
発生頭数

防疫に携わった
延べ人数 15万人以上



ピーク時消毒ポイント
348ヶ所

イベントの中止・延期
284ヶ所



6万8,266頭

4/20

都農町で口蹄疫発生確認

4/21 農学部口蹄疫対策本部設置

4/27 豚への感染確認
えびの市で発生



観光業界



大学構内の
石灰消毒のようす

農学部生による
署名・募金活動

START →

世界の口蹄疫の発生状況 (汚染国と清浄国)

世界には、口蹄疫が発生している国 (『汚染国』) と発生していない国 (『清浄国』) があります (下図を参照)。

口蹄疫が発生した国は OIE (国際獣疫事務局) から口蹄疫の『汚染国』とされ、畜産品の輸出が制限または禁止となり、その国の畜産業と経済に深刻なダメージが発生します。この状況を克服するためには、一日でも早い『清浄国』への復帰が必要不可欠となります。

『清浄国』への復帰には、殺処分のみによる防疫対策が行われた場合、最終発生から3ヶ月以上経過し、かつ口蹄疫ウイルスの存在が否定されることが必要です。ワクチンを接種した場合、ワクチン接種動物を殺処分した場合と、そうでない場合で、清浄国復帰までの行程が異なり、後者の場合復帰までに時間がかかります。

2010年に宮崎県で発生した口蹄疫では、終息宣言 (2010.08.27) 後の9月22日に実施した清浄性確認検査で陰性と確認されたことから、10月6日付けでOIEに申請を行い、翌2011年2月5日に『ワクチン非接種口蹄疫清浄国』として再認定されています。



家畜の感染症に対応できる拠点を つくる

一般的に言えることですが、非常事態の対応は、あくまでも非常 (特別な状態) なので、対応する人や組織、必要な予算についても基本的には一時的なものとならざるをえません。

しかし、今後の口蹄疫などの家畜感染症に対応してゆくには、獣医師などの専門家の養成、防疫の普及や啓蒙、ワクチンや診断法の開発など継続的な取組が必要です。また、海外での発生状況も常に監視して、必要な情報を国内の関係者に発信することも大切です。さらに、これらの取組の最新の状況を把握し、口蹄疫などが再び発生した際に、人や新しい技術を効率的に配置して使用することを適切に計画できる新しい組織が必要と言えるでしょう。

そこで、宮崎大学では、こうした状況に対応するため、今後の家畜感染症の予防から発生に専門的に対応する拠点である『産業動物防疫リサーチセンター』を2011年10月1日に設置いたしました。



92,936頭
29,762頭/日

5/12~14 署名・募金活動

5/17 日別発生件数・頭数最大

5/18 宮崎県知事 非常事態宣言

5/19 ワクチン接種決定

5/22 ワクチン接種開始

5/23 農学部獣医学科生による 口蹄疫啓発および募金活動

5/31 農学部生による口蹄疫問題 支援のためのタオル収集

6/4 口蹄疫対策特別措置法公布・施行

6/9 都城市で発生

6/10 宮崎市・日向市で発生

7/4 最終発生確認

8/27 口蹄疫終息宣言



Science Partnership Project

ミクロとマクロの眼で「生物のしくみ」を科学する

2012/07/28(Sat), 07/29(Sun)



SPP 事業は、JST（科学技術振興機構）の支援のもと、地域の学校と大学・科学館等が連携・実施する科学講座で、中学・高校生の科学技術や理科・数学に対する興味・関心を高め、知的探究心を刺激する科学実験プログラムの企画と実施を行っています。

当館で開催する実験講座は、今年でちょうど 10 年目を迎え、近隣の学校関係者の方々に広く認知して頂けるまでになりました。本年度は、新たな試みとして、2つの高等学校（宮崎第一高等学校と鵬翔高等学校）と連携・実施をしました。

参加した生徒さん達は、さまざまな実験や観察を通して、植物や昆虫、動物についてミクロとマクロの視点から学習を体験しました。講座後に書いていただいた感想では、「後輩たちにも是非参加してもらいたい」というコメントを多く頂き、大変好評でした。



ひらめき☆ときめき Science KAKENHI 土の粒子から農業や環境の歴史を科学する

2012/08/07(Tue)

ひらめき☆ときめきサイエンスは、我が国の研究支援の仕組みの一つである「科学研究費補助金制度」の下で進められている最先端の研究を小中高校生に、実験・観察・体験を通じて紹介し、科学のおもしろさを感じてもらうことをねらいとした科学講座です。

本年度実施した「土の粒子から農業や環境の歴史を科学する」は、土に含まれる植物に起源する粒子（プラント・オパール）や火山ガラスを実際に分析してもらい、農業や環境の歴史について学んでもらうプログラムです。

講座には、宮崎市内の中学生約 20 名が参加して、顕微鏡や実験機器を操作しながら科学実験を体験しました。「初めて農業に興味を持った」「難しそうだったけれど、とても面白かった」等の感想をいただきました。



青少年のための科学の祭典 宮崎大会

「ちから」をはかろう & 観てみよう！測ってみよう！

2012/08/03(Fri) ~ 08/05(Sun)



青少年のための科学の祭典は、科学のおもしろさ・不思議さを体感してもらうため、毎年夏休み期間中に、宮崎科学技術館で開催されています。今年で 14 回目を迎え、今ではすっかり宮崎の「科学のお祭り」として定着しています。

会場には、宮崎県内の小中高・高専・大学等の教員や学生さんの手造りの工夫を凝らした実験・工作があふれ、子どもから大人までじっくり楽しんで頂けます。開催中は、初めて参加する方からリピーターの方まで、延べ 1 万 5 千人ほどにご来場頂きました。

宮崎大学農学部からは、『腕相撲をする時のちからの大きさを測る「ちから」をはかろう』、『身近なモノをいろいろな顕微鏡（生物顕微鏡や実体顕微鏡など）で観察・スケッチする「観てみよう！測ってみよう！」』を出展しました。

カイコの幼虫が実際に繭を作る様子の観察は子ども達に大好評でした。



農学部歴史資料展示室リニューアル

農学部北棟1階には、博物館の分室として歴史資料展示室が開設されています。ここでは、宮崎大学農学部の前身である宮崎高等農林学校から今日の農学部に至るまでの、およそ80年にわたる農学部の歴史資料が展示・収蔵されています。

主な歴史資料には、宮崎高等農林学校、宮崎農林専門学校の研究報告や写真、実験装置などがあります。



農学部および構成学科の紹介 (PR) 展示の設置

大学を訪れる多くの方々に、農学部への理解と関心をより高めていただくことを目的に、学部内に学部および各学科の教育研究活動を紹介する展示を新設いたしました。

これらの展示では、
農学部ってどんなところ？
どんな教育や研究をしているの？

等といった内容について、
一般の方に分かりやすく紹介しております
ので、宮崎大学農学部へお越しの際には、
是非ご覧下さい。



設置場所 農学部北棟・南棟1階玄関



大学開放事業 大学祭

日本の食と伝統を支えてきた米や雑穀について学ぼう

当館では、大学祭の催しとして「農」と「食」と「健康」をテーマにした取り組みを毎年実施しています。会場には、日本と世界で食されてきたさまざまな米や雑穀の試食コーナーがあり、実際に、これらの味、香りそして粘りを体験しながら、その栄養価や歴史などを知って頂く体験型展示となっています。

今年は、前回好評だった「米パン(含む米粉パン)」の充実を図り、黒米や赤米の米パンの試食・紹介を追加しました。来場者からは、「それぞれの雑穀の風味を比較できるので良いですね」、「(お米 or 雑穀は)どこで手に入りますか?」、「米パンを売ってほしい」等、たくさんの感想や質問をいただき、盛況でした。

また、試食用パンが直ぐに無くなる等、「雑穀パン」への反響が予想以上に大きく、スタッフ一同、今後もさらなる内容の充実を図るとともに新たな雑穀の活用法の紹介を目指してゆきたいと考えています。

2012/11/17(Sat), 11/18(Sun)



お知らせ

大学博物館等協議会 2012 年度大会 第 7 回博物科学会 in 京都大学

大学博物館等協議会 2012 年度大会・第 7 回博物科学会が京都大学で開催されました。本大会では、研究発表のほか、各館を紹介するポスター展も開催され、当館からも研究発表および館紹介のポスターを出展いたしました。

会 場 京都市左京区吉田本町 (吉田キャンパス)
京都大学百周年時計台記念館
会 期 2012/6/21 ~ 6/22



標本收藏室の新設について

～今後の農学部の学術資料管理に対応するための收藏室整備～

これまで、農学部内の標本は、博物館分館の收藏室および標本を保有する学科・講座あるいは教員室や実験室等に收藏されてきました。しかし、平成 22 年度の学部改組にともなう部屋の用途換えや教員の退職に伴って、これまで学部で保存されていた学術資料・標本の管理に限界が生じ、保存管理体制を見直す必要が発生しています。

こうした状況に対応すべく、学部の特段のご理解をいただき、農学部棟 7 階に第 2 收藏室の設置を行いました。第 2 收藏室は 3 つの部屋から構成され、土壌標本、実験器具・試作品、昆虫・植物標本をそれぞれ收藏しています。特に、昆虫・植物標本を收藏した部屋は気密構造になっているため、燻蒸消毒の効果が高く、標本の保存環境としては大きな改善となりました。

今後は、本館内の第 1 收藏室と機能分担を行いながら、学部の学術資料管理に対応できる体制の整備を進めていきます。



平成 24 年度博物館スタッフ

附属農業博物館職員

館 長 那須哲夫 専任教員 宇田津徹朗
研究部員 武田 博 研究部員 長友由隆
研究部員 植松秀男

博物館運営委員

植物生産環境科学科 松尾 光弘 応用生物科学科 武田 博
植物生産環境科学科 園師 一文 応用生物科学科 江藤 望
森林緑地環境科学科 中園 健文 海洋生物環境科学科 幡手 英雄
森林緑地環境科学科 大地 俊介 海洋生物環境科学科 深見 裕伸
畜産草地科学科 小山田正幸 獣 医 学 科 日高 勇一
畜産草地科学科 井戸田幸子 医 学 学 科 中原 桂子
事 務 課 長 福留 孝司

大学へのアクセス

バ ス (宮崎交通バス)
宮崎駅より 40 分
宮崎大学行き
【811,822,832 番線】
J R
JR 日南線 木花駅下車徒歩 30 分
タクシー
JR 宮崎駅より 25 分
宮崎空港より 15 分



MAP AND DIRECTIONS
BUS From JR Miyazaki Station to Miyazaki Daigaku Bus Station, 40 minutes.
JR 30 minutes' walk from Kibana Station on the JR Nichinan line.
TAXI From Miyazaki Station, 25 minutes. From Miyazaki Airport, 15 minutes.



開館時間 9:00 ~ 16:00
休 館 日 土曜・日曜・祝日・年末年始
(大学祭、大学開放日には開館しています。)
入 館 料 無 料

宮崎大学農学部附属農業博物館

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1
TEL/FAX : 0985-58-2898

E-mail : a-museum@cc.miyazaki-u.ac.jp
HP : <http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~museum/index.html>